

新宿区教育委員会会議録

令和2年第9回臨時会

令和2年7月29日

新宿区教育委員会

令和2年第9回新宿区教育委員会臨時会

日 時 令和2年7月29日(水)

開会 午後 1時30分

閉会 午後 2時09分

場 所 新宿区役所6階第2委員会室

出席者

新宿区教育委員会

教 育 長	酒 井 敏 男	教育長職務代理者	今 野 雅 裕
委 員	古 笛 恵 子	委 員	星 野 洋
委 員	山 下 浩 一 郎	委 員	羽 原 清 雅

説明のため出席した者の職氏名

次 長	村 上 道 明	教育調整課長	齊 藤 正 之
教育指導課長	荒 井 亮 宏	教科用図書 審議委員会委員	坂 元 竜 二
教科用図書 審議委員会委員	池 田 知		

書記

教育調整課 主任	平 明 生	教育調整課 係	国 分 克 行
-------------	-------	------------	---------

議事日程

協 議

- 1 令和3年度使用新宿区立中学校教科用図書の採択について（教育指導課長）

◎ 開 会

○教育長 ただいまから、令和2年新宿区教育委員会第9回臨時会を開会いたします。

本日の会議には全員が出席しておりますので、定足数を満たしております。

本日の会議録署名者は、羽原委員にお願いいたします。

○羽原委員 はい。

◎ 協議1 令和3年度使用新宿区立中学校教科用図書の採択について

○教育長 本日は、議事はございません。

前回に続き、「協議1 令和3年度使用新宿区立中学校教科用図書の採択について」の協議を行います。

なお、本日も教育委員会会議規則第13条の規定に基づき、令和3年度新宿区立中学校教科用図書審議委員会委員に出席していただいています。

本日は、これまでの協議での1種への絞り込みができていない社会（地理的分野）及び地図について改めて協議をし、1種への絞り込みを行いたいと思います。

初めに確認をさせていただきます。

社会（地理的分野）については、東京書籍と帝国書院発行の教科用図書、また、地図についても東京書籍と帝国書院発行の教科用図書が候補となっています。

協議順は、社会（地理的分野）、地図の順とさせていただきます。

それでは、社会（地理的分野）について、改めて御意見、御質問がある方はお願いいたします。いかがでしょうか。

御意見、御質問、ございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

[発言する者なし]

○教育長 それでは、他に御意見、御質問がなければ、これまでの協議を踏まえて、採択に最もふさわしいと考える教科用図書について、改めて各委員の御意見を確認したいと思います。

星野委員、いかがでしょうか。

○星野委員 再度両方の教科書を見直してみましたが、結論としては帝国書院を推薦したいと思います。

その理由は幾つかあります。

確かに東京書籍は大分新しいことを入れてきて、興味深い部分もあるんですが、例えば、中国の、帝国書院だと55ページ、東京書籍だと63ページになりますけれども、公害の問題が載っているんですね。本文を読んでいて、ある程度問題になっている解決策等が載っているのが帝国書院です。本文にはざっと載っていきまして、その後のチェックとかトライとか、その部分に解決策が載っています。本文だけを読んである程度の理解ができるという点では、正直、新宿区の生徒はあまり社会が得意という話は聞いてはおりませんので、そういう生徒たちにはいいと思いました。

節の学習を振り返ろうという、節目節目で問題が載っているんですけども、その1番に関して、学んだことを確かめようということに関しましては、QRコードの中に答えが載っているということで、家に帰って確かめることができるという点でも、分かりやすいということを考えまして、帝国書院を推薦いたします。

○教育長 ありがとうございます。

続いて古笛委員、お願いいたします。

○古笛委員 私も改めて確認させていただきましたけれども、結論としては地図、地理共に今回は帝国書院でよろしいのではないのかと思いました。

これまでおおむねお話をさせていただいたことと同じなんですけれども、地理に関して、帝国書院のほうで解決の手法が丁寧に記載されているような感じがしたのと、それから地図に関しましては、いろいろな捉え方はあると思うんですけども、情報量が多いということと、それから新しいということは評価できるということで、今回は帝国書院ということにしました。

○教育長 ありがとうございます。

今野委員、お願いいたします。

○今野委員 私も前回と同様に帝国書院を推したいと思います。

文章の表現ですけれども、全体的にどの項目でも多面的な観点から丁寧に記述をしておりますので、子どもたちが分かりやすいのではないかという印象を強く持っております。

それから、度々議論になっていましたSDGsに関してですけれども、両者ともきちんと書かれていると思います。

帝国は、見開きの冒頭から17の項目ごとに関連する写真と説明が出て、そして関連する本文のページ数も併せて書いてある。それから、前回御説明があったように、SDGsに関わるテーマ、未来に向けてということで、25の様々な記述がなされていきまして、SDGsに

非常に熱心な教科書であると思いました。

東書もSDGsについては非常に明確に、はっきりした態度を取っていて、55ページでしたでしょうか、いい点だと思いましたけれども、17の目標の文言そのものを見やすく、きちんと書いてある。そして、その下にチャレンジとか見方・考え方というところで、地域的な課題が地球的な課題につながっているという大きな気づきをさせるような構成のされ方で、これは非常に優れている点と思いました。

いずれも、よさがある項目だと思いました。

それから、すごく細かいところですけども、帝国でいいと思いましたのは、領土問題で、北方領土のことも、両社詳しく書いてあるんですけども、帝国のほうでは、江戸時代の末でしょうか、日露通好条約の段階から4つの段階で領土が変わってきているというのが、地図で示されているというのも、歴史的に見る上で説明以上にいいと思いました。

関連して、領土の記述とは別に、北方領土に住むロシア人との交流ということで写真が出ていて、領土問題はあっても人々の交流は大切であるという視点だと思いますけれども、そういうものも併せて提示しているというところはよかったと思いました。

それから、日本列島、ユーラシア大陸側から見た地図というのも、文字の説明だけではなくて、示されるととても分かりやすく、ふだんと違う感覚で列島が見られるということがいいと思いました。

そういうことで、多様な資料が豊富に出てきている。大変興味深いものでした。

それから、振り返りの関係ですけども、例えば第1章の終わりですと、風景や生活の様子の写真を幾つか挙げて、それを世界地図のどの地域なのか類推して、選択して、そして、その判断した理由を書くという形で、非常に思考力を高める仕組みが上手にできていると思いました。

部分的なことを申し上げましたけれども、全体的に帝国の教科書がよろしいかと思いました。

以上です。

○教育長 ありがとうございます。

続いて山下委員、お願いいたします。

○山下委員 地理の教科書、いろいろ悩みました。

まず、帝国書院と東京書籍の書かれている量について、前回も言いましたけれども、私は地理があまり得意ではなかった。社会科は好きではなかったので、どうしても東京書籍がシ

ンプルでよいと思って見ていました。

実質的な量を比較してみると、各節ごとに1項目少ないですね。その分、量が少なく感じました。

何でこうなっているのか分からなかったのが、昨日、無理を言って、今、使っている今年度の教科書をお借りしまして、比較しました。

今年度はきちんと1節ごとに5項目あって、今見ている教科書よりも1項目多いんですね。多分、5つあったものを4つに縮めた、6つあったものを5つに縮めたという状況になっているんだらうと、項目を見て思いました。その残り1ページはどこへいったのかというと、東京書籍は、発表とかグループワークのところに充てているんだと思いました。1ページ丸々見開きで、2ページ充てていたりします。その分が項目の少なさになっているんだらうと思います。これを私は前回、地理の苦手な新宿区の子どもたちにとってどうなのかというところで非常に悩みました。まずこれが1点目です。

2点目が、教え方の問題でどうなのだろうと思いました。

なぜかという、理科、数学については、項目が少ないほうが、特に理科は苦手な子が多いので、項目が少ないほうがいいと我々は判断したかと思えます。苦手な子には、社会も項目が少ないほうがいいと思っていたのですが、いろいろ担当の方のお話を聞くと、理系の科目というのは削ることが非常に難しいと。教科書に載っていることを説明しないでそのままいくというのは非常に難しいんですね。課題があるのを、これをやらなくていいということは言えない。

でも、社会の場合には、自分たちでも勉強ができるし、むしろ先生方が教えたいという項目が教科書に載っていない場合、地理の場合はいろいろ去年と今年で比較して見てみたんですけども、例えば中国地方に鞆の浦の話があって、たしかジブリ作品の舞台になったところだと思えるんですけども、今年度の教科書には載っているんですけども、新しい東京書籍の教科書では省かれていたんですね。そういう話をしたいときに、何も載っていないとなると多分話はできないんだらうと。

授業の進め方を考えると、理系科目の場合は余計なものがあると非常にやりにくいんですけども、逆に社会の場合には、資料とか教える内容が載っていないと説明するのがすごく大変だし、教育現場でも別の資料をまた用意しなければいけないという大変さが出てくるのではないかと判断しました。

そして、純粋にページ数を見てみると、索引と統計データを除くと、帝国書院の場合、13

ページか14ページ、量が多いですね。ですので、今年度、おそらく教育内容が変わって情報が増えた分、東京書籍はデータを洗練してシンプルにして、ページ数はほぼ変えずに仕上げているんですけども、帝国書院は純粹にオンしている感じがしました。なので、東京書籍のほうが、いいように言うとはすごくシンプルですけども、悪く言うと中途半端に終わっているところが否めないと思いました。そういう教え方等々に配慮すると、帝国書院がいいと今回改めて思いました。

特筆すべきは、アジアの項目です。

アジアのところで、帝国書院は、中国の後にきちんと韓国を取り上げているんですね。今年度の教科書に取り上げられていなくて、今回初めてこの項目が取り上げられています。

今、新宿区においては韓国にルーツを持つお子さんも非常に多いので、ここの章立てがあるということは、子どもの教育にも非常に大切なのではないかと考えております。

以上の理由から、帝国書院にしたいと思えます。

○教育長 では、羽原委員、お願いします。

○羽原委員 教育長から、お先にお願いします。

○教育長 それでは、羽原委員から譲っていただきましたので。

私も基本的に帝国書院を推したいと思えます。

一つは、SDGsのところで、両方ともそれぞれ気を遣って書かれているんですけども、コラムとか項目出しが帝国書院のほうが分かりやすく出ていることと、それから、それぞれコラムのところも非常に幅広く取り上げているということ。

それから、山下委員もおっしゃいましたけれども、アジアのところで韓国が見開き1ページで入っているというのは、最も近い隣国韓国という話の作り方が非常にいい。

それから、東京書籍のほうが面白いと思ったのは、アジア州ならアジア州を眺めて、北アメリカなら北アメリカを眺めてという作りになっていて、いろいろなことを網羅的に書いて面白んですけども、どういう視点でこれが面白いのかというのが、地理が苦手な子は難しいのかなと。

その点、帝国書院は、まずはどの節でも、アジア州の自然環境、北アメリカの自然環境というのがまず一番初めに来て、その次に文化とか産業とか宗教とかが出てきて、それからまた個別のことが幾つか出ている。

先ほどもお話がありましたけれども、新宿区の子どもは社会の成績が今一つということだとすると、こういう整理がきちんとしてあったほうが、アジア、北アメリカ、南アメリカと

いう見比べもついて、学習もしやすいのではないかと思います、帝国書院を推したいと思っています。

それでは、羽原委員、お願いします。

○羽原委員 今、それぞれの委員から取り上げられた各部分については異論もあるし、それはどちらの教科書にも出ているんじゃないかということもありますが、僕はこの地理、地図ともにもうちょっと大きい立場で発言しておきたいと思います。

つまり、子どもたちが将来的に直面せざるを得ない地球規模、あるいはグローバルな課題について、より身近に学びやすく、かつ筋目の通った授業を可能にする教科書。この点で東書を推しているわけです。

特に、子どもたちが中学生というまさにこれから巣立っていく社会に横たわる大きなテーマに、より分かりやすい気づきのチャンス、あるいはその問題提供をもたらすにふさわしい、そういった内容の教科書は東書だと思っています。

部分部分で言えば、類似した、あるいは帝国のほうが指摘が望ましいところもある。しかし、全体として、この地理とか地図を将来の子どもたちが身につけておくべきポイント、これをよく押さえているのが東書だという観点で、しかも深い学びに沿った教科書だということで、推しております。

その点は、先日も申し上げたとおり中教審の答申、学習指導要領の解説でも教科書編さんのポイントを明らかにしています。この点、これまでの皆さんの御意見の中ではあまり重視されている発言がなかったのは残念ですが、この点は特に重視されなければならないと思います。

帝国もまたこの中教審等の趣旨に準拠しておりますが、内容的にもう一工夫欲しかった。この指針についてはですね。

あえて言うなら、地理や地図は帝国書院というイメージが非常に強く、これに乗りがちであるけれども、文科省等の趣旨への理解がもっとあれば、そうとばかりは言えないのではないかと。あるいは、将来の地球像について、もう少し大きな視点での教科書づくりを心がけていたら、それはそれで帝国書院でもいいですが、そういった点でちょっと物足りないということでもあります。

新宿区の教科書選定は、学校現場、調査委員会、さらに審議委員会の3つの場での評価で試みられています。帝国に慣れ親しんでいる学校現場は別としても、これらは圧倒的な格差ではないが、学校現場では帝国を選んでおります。審議委員会、調査委員会、この2つのほ

うでは、共にA評価という判断をして、その差は学校現場を含めて僅差であるということで、内容的にはかなり類似されている評価を得ております。

ただ、帝国を推される意見を伺うと、この評価に基づいているようですけれども、調査委の検討の報告を聞く限り、果たして新しい学習体制に入るに当たって、中教審などの大きな視点をどう考えたか。その疑問を改めて指摘はしませんが、その視点においていささか視野狭窄に陥り過ぎていなかったかと思わざるを得ません。

事務当局は今後十二分の配慮をするように鋭意お願いしたいと希望しておきます。

こうした中での教科書採択は、それぞれの判断についてミスリードを招きかねない。あるいは、保護者にも戸惑いをもたらすことにもなりかねず、また、これから生きていく子どもたちにより望ましい教科書を提供できないということにもなりかねません。

さらにもう1点触れておきます。

地理、地図の協議の中で、資料、図表、写真などの多いことが、あるいはページ数が多いことが評価されておりました。確かに、子どもたちが様々なデータを基に気づきを持つわけですから、それが多いことはいいことだろうと思います。そのとおり、多いことはいいと思います。物事に気づくためには、多様な子どもたちにとっていろいろなデータがあったほうが望ましい。これは間違いありません。

ただ、数量的に多ければいいのか。さきに九州地方の事例を地図についてお話ししましたが、質として必要なものが掲載されているのか、あるいは、順位的にはなくてもいいんではないかというような疑問も指摘しておきました。

単元が整理され、授業の狙いが定まっている限り、その品質において厳選したほうが望ましい。というのは、現状では教科目の増加があり、カリキュラムの膨張が進む中で授業時間は一定のままです。その一方で、主体的・対話的で深い学びという、むしろ話し合う時間が多く要求されている。また、時代の流れが大きく変わろうとしている現代ではそのようなニーズは必要だろうけれども、増やせばいいというものではなく、質的な厳選、これが非常に重要だと思っております。

その主たる理由は、小学生にはランドセルの重さが話題になり、中学校では今度の教科書改定でそのページ数は前回より8%増、前々回より20%増のページ立てになっているということです。これだけの内容を消化するには、話し合いなどは不十分に切り上げられたり、子どもによっては勉強嫌いにもなりかねず、アブ蜂取らずにもなりかねないという意味で、教科書のボリュームの問題は教育の質にも及ぶ問題であり、文科省に大きな責任が問われる一方、

教科書会社も数量のことばかりではなく、品質の厳選という点について今後は配慮すべきだと思っております。

肝心の教科書採択の問題に移りますが、採択については、多数決という、少数意見の排除という事態は好ましいことではなく、その立場からすると、ベターを選ばず、グッドにとどまる選択をせざるを得なくなります。

小生としては、教科書の基軸として望ましいものを持つ教科書を提供できず、グッドにとどめざるを得ない、帝国を選ばざるを得ない。これは、これからの子どもたちにお詫びしたいような気持ちがありますが、皆さんの多数の意見を採決で決める以前に、僕も帝国の採択に同調してまいります。基本的に多数決の決定は望ましくないという立場であります。

以上です。

○教育長 ありがとうございます。

それでは、確認をさせていただきます。

社会（地理的分野）については、帝国書院発行の教科用図書を採択の対象とする教科用図書とするということによろしいでしょうか。

〔異議なしの発言〕

○教育長 なお、事務総括をする立場の教育長として、ただ今、羽原委員から様々な御意見を頂戴しました。間々、各委員からも御意見を頂戴いたしました。それぞれの御意見については、採択が終わった後での学校教育の現場で、十分肝に銘じて対応していただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、続いて地図について、改めて御意見、御質問があれば、お願いいたします。いかがでしょうか。

〔発言する者なし〕

○教育長 ないようであれば、地図について、これまでの協議を踏まえて、採択に最もふさわしい教科用図書について、改めて御意見を確認したいと思います。

では、古笛委員からお願いできますでしょうか。

○古笛委員 地図に関しましても、私は帝国でよろしいかと思っております。

帝国自体、質の問題、量の問題はあるかとは思いますが、確かに従来と比べると、地図は圧倒的に帝国という感じはなくなってきていると思います。そういう意味では、羽原委員からお話があったとおりでと思っておりますけれども、今回の採択に当たりましては、帝国でよろしいかと思っておりました。最終的な結論です。

以上です。

○教育長 ありがとうございます。

今野委員、お願いいたします。

○今野委員 私も帝国を推したいと思います。

前回は申しましたけれども、地図、資料とも豊富で充実している。版型が大きいので、子どもたちが学習するときにゆったりと勉強できるというのが主な理由です。

ただ、東書もとてもいい構成になっていまして、特に感じましたのが、アジア州などの地図の本編が始まる前に、世界全体についての地図、資料の読み取りが様々にページを割いて出てきます。帝国にもあるんですけども、ややあっさりしていて、後ろの資料編にもあるんですけども、ちょっと薄い。

しかも、内容的にも東書でいいなと思いましたが、SDGsの関連ですけれども、現代的課題ということで、CO₂の排出量とか、再生可能エネルギー導入とか、5歳児未満死亡率、安全な水を利用できる人の割合とかいうふうなことで、問題意識を鮮明にした形での世界地図や資料というものが最初に出てくるんですね。

ですので、本体の地図を勉強するときに、あらかじめそういうものを見ておくと、視野も広く、世界的な観点からいろいろなことが見られるし、現代的な課題についての意識も高まった上で地図が見られるのではないかと。東書はそこがとてもいいところと思いました。

けれども、全体的には、これまで申し上げてきた理由から、帝国という判断でございます。

以上です。

○教育長 山下委員、お願いいたします。

○山下委員 私も結論から言いますと、帝国書院を推したいと思います。

今使っているものと新しいものを両方見させていただいたんですが、版型は、今、使っているのは小さいんですね。その前は大きかったはずなんですけれども、一回小さくなって、また大きくなったということは、これには多分意味があって、見比べてみると、やはり大きくなった分、載っている内容がよくなっているというよりも、すごく細かい配慮ができるようになっていて、今、使っているものと比較するとより説明的になっているなという点で、すごく評価できます。確かに、大きくなると非常に見やすいということを実感しました。

デザイン的には、私は東書のほうが好きで、非常に見やすいですし、地図というのは、基本的に最初に見るものですから、こちらのほうが私はじっくり見ることができると思っています。

東書は、非常にテーマ的と感じていまして、最初にテーマを与えられて、それをすごく深く掘れるように書かれていて、非常に厳選された感じはします。

ただ、ヨーロッパとアジアを比較してとか、国をまたがっていろいろと見たときに、足りない資料ですとか、帝国にはあるんだけど、東書にはないという資料が若干あって、そこをどう捉えるか。特に、学校の先生が授業を進める上で、ここと比較して、となったときに、一切手に取れる資料がないという状況は避けたほうがいいと思っています。

東書の地図についても昨年度と比較したんですけれども、劇的に変わっているところはそれほどなくて、デザイン的にも踏襲して作っていると思いました。ただ、テーマ的にそろえているところは非常に分かりやすくいいと思っています。

ということで、今回の教科書には帝国書院の地図がいいと思いました。

以上です。

○教育長 星野委員、お願いします。

○星野委員 地図に関しましても、私は帝国書院を推薦します。

教科書とのリンクはもちろんありますけれども、情報量という点で確かに多いというお話がありました。ただ、これはQRコードの中まで見ていくと、とんでもない量の情報量がありまして、ここに載っている資料もありますし、載っていない、新たに出てくる資料もあります。動画を使って分かりやすく解説した部分もありますので、少なくともスマホが使える環境のお子さんであれば、家に帰ってもかなりの勉強ができると思います。

もし、そういう環境のないお子さんでしたら、教員のほうでその辺を配慮してあげれば、家でも勉強できるという点で、資料の量だけでなく、学びの導きもQRコードの中には入っていました。今回、改めて見てみたらすごい量が入っていて、びっくりしました。

東書に関しましては、QRコードはあるんですけれども、残念ながら白地図と地形図ぐらいしか載っていないくて、資料も省庁のホームページに飛ぶことはできるんですけれども、その中で探さなければいけないという状況でしたので、あまり見る気にならないかなと思いました。

以上から、私は帝国書院を推させていただきます。

○教育長 ありがとうございます。

では、私からでいいでしょうか。

地図についても、私も帝国書院を推したいと思います。

まず、東京書籍の地図で面白いなと思ったのは、日本の地図のところで断面図が出ている

んですよね。高低差が分かる図面があって、例えば、中国・四国地方だったら103ページに、ここで切ったらどう見えるというのが載っていて、これはなかなか子どもの興味をそそるものですけれども、反対に土地利用のところはちょっと、工夫なさったんでしょうけれども、少々変化が分かりにくいと思いました。

帝国書院は、自然、降水量、人口分布、農業・工業、交通という5パターンはどこの地方でも出てくるんですね。

東京書籍は3つなんですね。自然環境と土地利用と降水量という3つなので、こういうところでも見比べの視点、興味・関心を持ってそれぞれの地域を見るという視点での工夫がされていると思ひまして、帝国書院を推したいと思ひます。

では、羽原委員、お願いします。

○羽原委員 先ほど、地理も地図も一緒に述べましたので、基本的には変わりません。

ただ、一言追加しておきますと、日本の子どもたちがあまり国際的な観点が強くない。海外へ行くと、日本の若者たちは、日本の歴史、あるいは日本の置かれた現状というものが十分に説明できない。

こういうような状況からすると、もう少し、地図や歴史は平板な情報ではなく、ある程度問題点を絞っていくような授業で、子どもたちが何に関心を持てるか、何に気づきがあるかという点を誘い出すことが授業の眼目でもあろうかと思うんです。そのことを文科省も言っているわけですから、その点において、皆さんと教科書の見方が違うと思ひます。

僕は、大きな意味では、中学校3年間この教科書でやるのであれば、東書において少し鋭角的に問題に触れ合っていくこともよいかと思ひます。

ただ、多数決には反対の立場でありますので、最終的には帝国を推すことにいたします。

以上です。

○教育長 ありがとうございます。

では、これまでの協議内容の確認をしたいと思ひます。

地図については、これまでの協議内容を踏まえた上で、皆様の総意として、帝国書院発行の教科用図書を採択の対象とする教科用図書とするということによろしいでしょうか。

[異議なしの発言]

○教育長 ありがとうございます。

以上で、本日の教科用図書の絞り込みは終了しました。

本日までに絞り込みを行った教科用図書については、議案として取りまとめ、8月7日の

第8回定例会に提案をさせていただきます。

ここで第8回定例会の議案の形式及び審議の進め方についてお諮りしたいと思います。

令和3年度使用新宿区立中学校教科用図書については、全種目を一括して掲載した議案とし、一括審議の後、一括採択するということで進めさせていただきたいと思いますが、御異議ございませんでしょうか。

[異議なしの発言]

○教育長 それでは、そのように進めさせていただきます。

以上で、本日の協議は終了いたしますが、事務局から何かありますでしょうか。

○教育調整課長 特にございません。

◎ 閉 会

○教育長 それでは、本日の教育委員会を閉会といたします。

午後 2時09分閉会